

いよいよ2007秋冬がスタートしました。この秋から新素材を導入し、より多彩なデザインとリーズナブルなプライスのUTOにご期待ください。

『カシミア&ハイクオリティニット』がUTOのキャッチフレーズですが、今まではカシミアの受注分の生産で手が一杯でカシミアオンリーでした。山梨工場が本稼動しこの秋からやっとカシミア以外のハイクオリティ素材の展開が可能になりました。カシミアシルクや最高級のメリノウールやスーパーキッドモヘア等の新鮮な素材のニットをカシミアで培った丁寧でグレードの高い物づくりで提案します。

メンズにも本格参入します。

シルエットは2タイプ、肩幅が広くアームホールや袖がゆったりりのクラシック(トラディショナル)タイプと、肩幅の狭いボディフィットのトレンドタイプです。

本社の営業に大貫(おおぬき)が入りました。彼は以前一緒に仕事をすることがあります。気が知れた心強い味方が参画してくれました。どうぞ宜しくお願いします。

『現物販売会を開催しませんか?』

UTOのカシミア&ハイクオリティニットの販売会を開催しませんか?3日~2週間ぐらいの期間でご希望の点数をお貸しします。

今年からカシミア以外の商品も登場します。『売上仕入』という完全なノーストックです。

『展示会での仕入が主体』というお店もありますがUTOのメイン商品であるカシミアをはじめ高級素材の商品を沢山仕入れることはリスクが高すぎますね。そこでUTOでは受注会や現物販売会をご提案しています。

また、自分にピッタリのサイズや気に入った色が希望の方は(カシミア100%の商品)3週間ぐらいでお作りします。

【一味加味のお洒落なカシミア】

カシミアはベーシックやアーガイルと思いがちですがUTOのカシミアは程よくデザインされた知的な大人のエレガンスです。

カシミアをはじめ高級素材のニットが一同に揃い多彩な色の華やかな催事はきつと喜ばれると思います。あらゆるファッションが氾濫し、二極化の昨今、ファッションの好きなお客様は差別化された本物を捜していらっしゃいます。

カシミア100% リブセミロングカーデ

No.1007-2004 ¥72,000.+TAX



7ゲージセミロングのカーデガン
今年売れ筋No.1の人気者
これなら車で移動の時も、電車でお出かけ時にも温かです。色んなコーディネートが出来るとっても便利。

カシミア100% 7分袖リボンフリルPO

No.1005-1002 ¥52,000.+TAX



両袖にリボンが付いたチャームなニットです。
今年はこのかわいらしいニットをダークな色で着こなしてみてください。

カシミアシルク 異素材織取り半袖とカーデ

No.5012-1003 ¥28,000.+TAX
No.5012-2001 ¥38,000.+TAX



肌触り抜群のカシミアシルク素材にウールカシミアで太目の畦編みでの織取りがお洒落です。アンサンブルでなら3シーズン着れて 重宝です。



Brenthia ino tipoides

コヒョウモン

【南青山界限】

UTOはこんな街から発信しています

長州下屋敷跡に出来た街

東京ミッドタウン

2007年4月9日にオープンした東京ミッドタウンのミッドタウンタワーは東京で一番高いビルで、地上54階建、248メートルもあるそうです。当社から建築中の様子がよく見え、だんだん高くなっていくビルを六本木ヒルズと比べて楽しみしていました。

ディベロッパーが六本木ヒルズの新興の森ビルに対してこっちは伝統の三井不動産。テナントのホテルが、グラントハイアットに対してリッツカールトンという、トレンド志向の六本木ヒルズに対してグレード志向のミッドタウンというように好対照でそれぞれの特徴がよく出ているように思えます。

六本木ヒルズには森美術館があり、こっちは赤坂から移って来たサントリー美術館があります。すぐ近くに国立新美術館があるので一日で3館を巡る人もいそうですね。でも、私は美術館のハシゴをする気にはなりません。美術鑑賞は好きだけれど、とんかつとステーキとつなぎを連続で食べるような感じになってしまうんです。

このミッドタウンが出来た前には防衛庁でした。



た。その前は東京歩兵第一連隊。もつと前の江戸時代、文政11年(1828年)の古地図によるとここは松平大膳太夫となっていて下屋敷の印の●が付いています。

松平とあるので徳川家の親藩と思いきやこの松平大膳太夫は長州毛利藩37万石のことだそうなんです。ここは長州藩の下屋敷だったんですが、幕末の頃幕府の長州藩追討の折に幕府によって壊されたしまったそうです。

一方、六本木ヒルズの方は長府藩・毛利甲斐守の上屋敷、毛利庭園はその名残ですが、期せずして両方とも長州に関係あるというの何かの縁かも知れませんね。

この長州屋敷の約3万7千坪もある敷地は斜面になっていて、防衛庁のあった高台に屋敷があった長州の檜屋敷と呼ばれ、低い方が池のある庭園になっていたそうです。この庭園が後に港区の榎町公園になりました。このUTOを始める前に勤めていたレ・アールがこの近くでしたのでたまたま息抜きに行きましたが、厳しい防衛庁の裏というところもあつてかあまり人も来ないジミーな公園でした。

ミッドタウンの南側(六本木寄り)を敷地に沿って歩いていくとミッドタウンと榎町公園の眺めがいきなり通りますがかなり急な下り坂です。この坂が江戸の昔から残る檜坂。長州屋敷を挟んで北側の坂が地下鉄千代田線の駅名にもなっている乃木坂からも分るように赤坂から一段上がる丁度境目の土地なんです。

ミッドタウンといっても大半はオフィスビルや住居ビルですから外から来た我々が入れるのはショッピングエリアのあるガレリアに限られますが、ミッドタウンと隣接しているこの榎町公園も一緒に整備され境も取り払われているのでとっても気持ちのいい空間になりました。
お天気のいい日なら日本庭園と高層ビルを眺めながらお弁当を開くのは都会では最高の贅沢かもしれません。

* ファッション販売員のための ニットの話 * (二十二)

世界のニットを作る

SHIMAは日本が世界に誇るニット編み機

一昨年から始まったUTOの山梨工場では2台のコンピュータ制御の最新鋭機が活躍していますが、この編み機は今世の中に出回っているニットの柄のほとんどを編むことが出来る優れたものです。

人間の手で編めないものは無いといわれますが、複雑で細かい透かしや移しの柄や編地などの難しい柄をいとも簡単に編んでしまい、まるで魔法を見ているようです。この凄い編み機を作っているのが島精機製作所という日本の機械メーカーです。本社は和歌山にあります。

島製機は一般の消費者やお店の人々にはあまり知られていないと思いますが、実はニットの製造業界ではシマ(SHIMA)は世界の常識なんです。

皆さんよくご存知のシャネルやアルマーニ(UTOMも入って欲しい)などのスーパーブランドのニットもほとんどがシマの機械で編まれたものだと思います。それぐらい名実共に世界から評価され活躍しています。

最近では縫わずにセーターが編めるというホルガーメント機を開発して話題を集めています。それ以外の自動編み機のセーターでも断然世界ナンバーワンなんです。



先進国ではニットを手動で編む技術者がほとんどいなくなりました。現在、業界が成立するのも、ニットパレルのUTOが製造に参入することが出来たのもシマの編み機があったからです。

このシマを導入するきっかけは今から6年ほど前だったと思います。今のUTOビジネスモデルである『お客様様の希望の色で、ピタリのサイズで、短期間で』作って欲しいと日本中のニッター(工場)さんをお願いして回り、かたづけから断られていたときでした。

業界の展示会で、コンピュータ制御で美しい編み機を見たとき、『この機械があれば今考えているビジネスモデルが実現できるぞ!』とかなりの衝撃を受けました。値段を聞いたら一台1000万円以上。それにその編み機を動かすためのシステムが500万円、...

1000万円という金額自体は高いけど、こんな性能を持った機械が1000万円は安い!と思います。この凄い機械が1000台ぐらい並んで稼働している様子が頭に浮かんできました。『是非欲しい!絶対にこの機械を買っぞ!』と心に決めました。

その時熱心に説明していたのが昨年定年退職された取締役営業部長の後藤さんでした。編み機を購入する可能性があるのはニットの製造メーカーというのが常識で、弱小のニトアパレルが将来、買いたいといつても普通は本気にも相手にもしないでしょうが、後藤さんは部長さん自ら熱心いろいろなことを説明してくれました。以来、このニット作りが出来る度にお送りして近況報告をしていました。

あれから約6年、現在東京支店長の雑賀さんに引き継がれたのを切っ掛けに佐野工場長との出合いがあり、ついにUTOが編み機を買うことになったとき、後藤さんが「良かったですね」と言ってくれましたが内心一番驚いておられたのも後藤さんだと思っています。なにせ最初は夢物語のような話から始まりましたから。会社の存続もままならない状態、将来工場を持つとか、その工場には編み機が100台並んでいるとか夢のような話をするんだから興奮めもいいたく、非現実的だったかも知れませんが、私には花が咲き乱れる環境の工場に100台のシマの最新の編み機が稼働する姿がはつきり見えていました。

今もそれに向かっています。ゼロから1台目、2台目になり、あの夢の話から現実の世界に入ってきました。100台にはまだスタートばかりです。でも私にはこれからのほうがずっと現実の世界に見えます。日本でこんな素晴らしい機械を作っている人ですから、企画も物づくりも世界に誇れる会社が出なきゃ。

忙中暇話・ニットのたわごと

グーグルマップで世界旅行



小さい頃から地図が大好きです。旅行好きと地図好きはセットのような気がします。一年ぐらい前から地図検索サイトのグーグルマップに嵌っています。

住所さえ入れれば勝手に正確な場所を表示してくれるような便利な検索サイトが無料で使えるとは、本当に便利な世の中になりましたね。

港区南青山5-1-16-3と入れると当社の入るビルまで瞬時に表示してくれるし、『写真と地図』をクリックすると航空写真で島になった気分で見ることができ、倍率を最大にすると青山通りや骨董通りを通っている車や駐車をから見る車まで見え、おおよその車の車種まで判別できる。すごいというより怖いぐらいです。

このマップを見ているとさながら空から旅をする気分しかも国内から一気に世界へ旅することが可能です。

一般人がここまで見られるんだから、アメリカの国防省あたりが北朝鮮の核施設の基地を常時監視しながら、どの車は何回来たかぐらいは全部判別しているはずと妙に納得してしまっています。

こうなると以前訪れた街を確かめたくなくなります。イタリアからスイスへバスでアルプス越えした道や列車で通った跡。ロマンチックな村々。ソルトレイクからイエローストーンに入りカナダのバンフを抜けバンクーバーからソルトレイクまでレンタカーで4000キロも旅した跡。海上を走ったキーウエストへの道、等々。

このグーグルマップで再認識したのが港街。空からフォーカスすると、故郷の長崎をはじめ、北前船が立ち寄った日本海の港。大航海時代に帆船で賑わった港。大都会に発展した世界の有名な港街のサンフランシスコ、メルボルン、ダーバン、ベニス、ジェノヴァ。みずみずしい季節風や嵐などのときに外海からの荒波や暴風を避けられるような地形です。特にノルウェーのオスロやベルゲンなどはどこから入るんだらうと思うぐらい複雑に入り江の奥で、いわゆる天然の良港だったことに気づかされて嬉しくなります。

パリのエッフェル塔もエジプトのピラミッドもはつきり見ることが出来ます。他の世界遺産の街の、アンコールワット、インカ帝国の跡のマチュピチュ、イグアス滝はどうなっているんだらうと思って探しますが残念ながら詳しい地図や写真の倍率が低いんです。詳しい地図が載っていない国が多いけど、日本、アメリカ、イギリスなどはその上車まで判別できるぐらい詳しく見ることが出来る国もあります。

この地図の詳しいさが国の経済の発展や情報公開度の高さを物語っているパロメーターのように思えます。

グーグルマップで遊んでいると時間があっという間に過ぎ、久しぶりに夢になる玩具が手に入った気分です。

世界のホテルを旅する(二十二) 元、旅行屋のお勤め
 フイレンツェ・イタリア
 ホテル サンタマリア ノヴェツェラ

ヨーロッパを訪れると街自体が美しいことにいつも感動したり感心したりします。特に小さな都市に惹かれます。ドイツのロマンチック街道の城郭に囲まれた街、オーストリアのザルツブルグ、イギリスのカントリーサイドの村、アルプスを背景にした緑の村々、数え上げたら限が無いでしょう。そんな中でもフイレンツェは世界でも最も美しい街のひとつではないでしょうか?

街を一望できるアルノ川の高台にあるミケランジェロ広場から見下ろしたフイレンツェの街は『絵の様に』というより絵画より美しいと思います。まさに人が作り出した芸術作品です。

こんな美しい歴史の街で現実に人々が生活し盛んな経済活動が行われている事が不思議な気分です。

中世にタイムトリップしながら、歴史の街中を歩いているとき最新のファッションのショーウィンドーに出会います。それが全く違和感が無く中世の街にピタリと嵌まっているんです。



今回のホテルはフイレンツェの中心、サンタマリアノヴェツェラ教会の広場に面したホテルです。決して豪華ホテルではなくヨーロッパの古いタイプの、部屋が狭いビジネスホテルに近いホテルですが、なんとと言っても売りはロケーションです。このホテルに泊まったのは連日ニット工場を走り回る多忙な仕事の時でした。というのもフイレンツェの周りはイタリアの中でもニット産業の盛んなところなんです。

ノヴェツェラ教会は中庭の回廊が美しい教会で、この街で重要な見所です。仕事から帰ってホテルのテラスに出て左を向けば、白と緑の大石の美しい教会が微笑んでいてホッとします。昼間は世界中からの観光客で賑わっていますが、早朝や夕方はよき行きの顔ではなく、フイレンツェの人達の日常生活に根づいた信仰の為の場です。

早朝、まだ観光客が動き出す前の静かな教会には、敬虔な信者が次々と訪れ立ち止まって祈りをしています。お使いの途中のおばさん。犬の散歩の男性。よちよち歩きの孫の手を引いたおじいちゃん。お折りを済ました後はみな一応に穏やかな表情をしています。

この朝の普通の人達の普通の光景に遭遇して、観光客向けによそよそしい顔をしたルネッサンスの街のイメージが強かったフイレンツェの街がぐっと身近になり、以前にもまして好きになりました。